



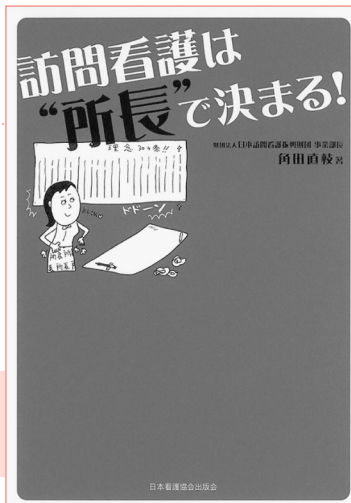
利用者が求める訪問看護を実現する生き生き所長をめざして

[評者] 木下由美子 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科
教授(地域看護学)

訪問看護は“所長”で決まる！

角田直枝

定価 2100 円(本体 2000 円+税 5%) 日本看護協会出版会 TEL03-5778-5640



本書を 10 年以上前になる自分の管理者時代を思い浮かべながら読みました。

所長が生き生きしていない訪問看護ステーションは、スタッフも生き生きしていないといえますが、所長が生き生きしているステーションであっても、必ずしもスタッフが生き生きしているとはいえないところに管理の難しさがあります。

●忙しい所長・管理者のために

それにしても、訪問看護ステーションの所長・管理者を読者対象とした本なのに、ここまで難易度を下げる必要があるのでしょうか。そう思うってしまうほど、手軽に読める内容です。忙しい所長・管理者にぴったりのといえます。4 章で構成されていますが、全 131 ページのため、通勤電車のなかで読めてしまいます。

第 1 章では、所長の役割の大切さについて、所長が訪問看護を変えていくと述べています。第 2 章は、よい所長とはどういう人かについて、第 3 章では、15 事例の所長がこのように変わると、変化の方法について説明しています。そして最後の第 4 章では、よい所長になるために定期的な自己評価、他者評価の必要性に

ついて述べ、評価表を紹介しています。

これらは、著者の角田さんが日本訪問看護振興財団において、訪問看護ステーションの所長・管理者およびスタッフと接するなかで経験したこと、学習したことといえるでしょう。

●ロールモデルとなる所長が増えることを望む

訪問看護はやりたいけど、管理者や所長にはなりたくない、そう語る訪問看護師が少なくありません。その理由として、豊富な知識や技術が求められる、訪問看護ステーションの代表者として他職種や他機関と交渉しなければならない、組織のなかで訪問看護ステーションの活動が認められるようにたえず改善が求められる、仕事量が多いなどが挙げられます。

角田さんは、学生や訪問看護師が将来管理者や所長になって、利用者が求める訪問看護を実現したいと思えるようなロールモデルとなる所長が増えることを望んでいると思います。本書はその一助となることでしょう。

●問題解決志向を応用して

私も管理者となって間もない頃は、管理ではなく、できるだけ自分が訪問看護をしたいと思っていました。しかし、やがてスタッフの育成や利用者の満足度の改善に喜びを感じるようになり、さらに根源となる看護基礎教育に興味を抱き、教員になりました。

訪問看護ステーションでの管理経験が初めての所長や管理者が多いなかで、生き生き所長となることは大変なことかもしれませんが、問題解決志向は看護過程でお得意のもので、スタッフや事業所の問題解決にも応用して対応できることでしょう。

次は、定期的に自己評価、他者評価を行なった所長の報告と改善策の提案を期待しています。